

ウォーカーブル<sup>すいしんけいかく</sup>推進計画

甲府駅<sup>こうふえき</sup>周辺<sup>しゅうへん</sup>地区<sup>ちく</sup>

やまなしけん  
山梨県

令和8年3月

ウォーカブル推進計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	山梨県	市町村名	甲府市	地区名	甲府駅周辺地区	面積	115 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 11 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 11 年度
------	--------------------	------	--------------------

**目標**  
 大目標:地域資源の魅力向上と回遊性の向上により、人々が集い、賑わいがあふれ、歩きたくなるまちなかへ再生する。  
 目標1:都市機能の集積と居住空間の創出による生活利便性の高いまちなかの魅力の再生  
 目標2:多様な来訪者の拠り所となる拠点整備によるまちなかの活力の再生  
 目標3:子育て支援及び環境教育の場のリニューアルによるふれあいと賑わいの再生

**目標設定の根拠**  
 まちづくりの経緯及び現況  
 甲府駅周辺では、駅北側において「甲府駅周辺土地区画整理事業(平成3年~)」により地区内外にあった公共施設等の再編が行われ、合同庁舎、県立図書館、駅前広場等が整備され、駅南側についても、「甲府駅南口周辺地域修景計画(平成24年3月)」に基づき甲府駅南口駅前広場や平和通りの整備が進められてきた。また、中心市街地においては、平成22年度から2期に渡って都市再生整備計画事業を実施し、市道の高質化や甲府駅北口の賑わいの拠点である甲州夢小路と甲府城周辺を結ぶ歩道の整備など、まちなかの回遊性向上に取り組むとともに、商店街の活性化事業をはじめ、商工会議所等によるイベントやチャレンジショップへの支援等の新たなソフト事業が実施された。これらの取組の結果、甲府駅周辺地区全体の歩行者交通量は平成27年の約13.5万人から、令和元年には約14.6万人に増加している。  
 令和2年度からは、新たに都市再生整備計画(甲府駅周辺地区)を作成する中で、国史跡に指定された甲府城跡を中心として、その周辺地域の活性化を目的に、山梨県と甲府市が共同で策定した、甲府城周辺地域活性化基本計画(平成28年6月)及び甲府城周辺地域活性化実施計画(平成29年12月)に基づき、甲府城を中心として城下に栄えた賑わいや歴史が感じられる交流施設及び交流広場を整備した。  
 中心市街地の中核をなす「丸の内一丁目地区」においては、これまで長きにわたり賑わいを創出してきた県内唯一の百貨店が移転し、その跡地において市街地環境の整備改善と良好な市街地住宅の供給等を目的に、優良建築物等整備事業により民間再開発への支援を進めている。  
 また、本地区の南部に位置する遊亀公園・附属動物園は、県内唯一の動物園を併設する公園であり、小規模ながら動物と親しむことができ「市民や県民に憩いと安らぎを提供する場」等の機能を担ってきたが、利用者ニーズとの乖離や施設の老朽化などが顕著化していたことから、開園100周年及び開府500年を契機に「新たな歴史と交流を育む場所」としてのリニューアル整備に向けて、市民の意向を確認しながら、甲府市遊亀公園・附属動物園整備計画(実施計画)(令和元年6月)を策定し、整備を進めている。  
 本地区を含む「まちなかエリア」を対象とし、行政や民間事業者で組織する「甲府まちなかエリアプラットフォーム」を中心に官民連携で「甲府まちなか未来ビジョン2025(令和7年2月)」を策定し、「まちなかの魅力的なライフスタイルの実現」や「地元の人々がまちなかで暮らしを大好きになり、まちなかで過ごす時間が増えること」を目指して、社会実験の実施・検証等に取り組んでいる。

**課題**  
 ・本市の中心市街地は、県内の主要な公共交通(鉄道、バス)の結節点である甲府駅を起点に県庁や市役所などの官庁が集積する地区を含み、駅からおおよそ1kmの範囲の商業地とともに形成されてきた。しかし、モータリゼーションの発達や郊外の大規模集客施設の立地により、中心市街地としての機能が低下し賑わいが失われつつあったことから、令和2年度より都市再生整備計画(甲府駅周辺地区)を作成し、中心市街地を含む重点都市機能誘導区域内において、甲府城周辺地域や遊亀公園・附属動物園等の整備を行い、賑わいがあふれ、歩きたくなるまちなかへの再生に取り組んできた。  
 ・県内唯一の動物園を併設する公園として大正8年に開設された遊亀公園附属動物園は、施設の老朽化や利用者ニーズとの乖離などに伴い、従来の賑わいが失われつつあることから、まちなかの動物園としての立地特性を活かしつつ、多世代が集い憩える空間として、時代のニーズに合った展示方式への改善や子育て支援機能、環境教育機能の充実が求められている。  
 ・「丸の内一丁目地区」は、優良建築物等整備事業に引き続き取り組むことで、老朽化した建築物の更新や、土地の合理的かつ健全な高度利用を進め、都市機能及び居住機能を兼ね備えた良好な市街地環境の形成を図るとともに、甲府城周辺で実施している各種事業との連携強化を進め、地域商店街の振興や、中心市街地の活性化、まちなかの再生につなげる必要がある。  
 ・甲府市の中心市街地に位置する中央公園(昭和46年開設)並びに丸の内公園(昭和57年開設)は開設以来40年以上経過し、施設の老朽化や公園利用者のニーズも変化していることから、公園利用者のニーズを反映した身近な公園として人々が集い、憩い、交流できる広場空間の構築を図るため、リノベーションが必要である。  
 ・そして、まちなか全体の活性化を図るためには、甲府城周辺整備及び丸の内一丁目地区優良建築物等整備、中央公園・丸の内公園・遊亀公園・附属動物園整備の拠点性・連続性を高めることが重要であり、賑わいの拠点を結び、歩行者が歩きたくするような歩行空間整備による回遊性や滞在快適性の更なる向上が必要である。

**将来ビジョン(中長期)**  
**【総合計画】**  
 第六次甲府市総合計画の基本構想における都市像である『人・まち・自然が共生する未来創造都市 甲府』の実現に向けたまちづくりを実践する。  
 ・「第六次甲府市総合計画」では、施策の柱及び施策として、「交流と賑わいを創出する」「中心市街地の活性化」を掲げ、中心市街地の賑わいの創出に向け、商店街、各種団体、事業者などの民間主体の活動を支援するとともに、歴史、文化、芸術などを活かした回遊を楽しむことのできる中心市街地の整備を図ることとしている。また、「公園の整備と緑化の推進」と「良好な景観の形成」を掲げており、甲府城周辺の風格ある景観整備や緑あふれる遊亀公園の整備を図ることとしている。  
**【都市計画における基本的な方針】**  
 ・「甲府市都市計画マスタープラン」では、本地区は広域都市拠点に位置し、更なる拠点の魅力を高めるため、高次な都市機能の維持更新や遊休不動産など既存ストックの積極的な活用を推進するとしている。  
**【立地適正化計画】**  
 ・本地区は、市の中心に位置する高次な都市機能が集積した山梨県をけん引する拠点として「重点都市機能誘導区域」に設定しており、「都市機能」及び「居住機能」の誘導を図ることとしている。

**一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画**

滞在快適性等向上区域の考え方  
 これまで回遊性向上に向けた高質空間形成等に取り組んできた甲府中心市街地を滞在快適性等向上区域として設定し、道路の整備などによりゆとりある歩行者空間を確保するとともに、沿道の民間事業者による道路と一体となったオープンスペースの創出や公園や道路が居場所、目的地となるような整備を行うことにより、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。

滞在快適性等向上区域での取組  
 公園利用者のニーズを反映した身近な公園として人々が集い、憩い、交流できる広場空間の構築を図るため、中央公園と丸の内公園のリノベーションを実施する。

**まちなかウォーカブル推進事業の計画** ※以下の項目が該当する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市のコンパクト化の方針 ※施行地区要件において、観光等地域資源活用支援型を適用する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 これまで回遊性向上に向けた高質空間形成等に取り組んできた甲府中心市街地を滞在快適性等向上区域として設定し、道路の整備などによりゆとりある歩行者空間を確保するとともに、沿道の民間事業者による道路と一体となったオープンスペースの創出や公園や道路が居場所、目的地となるような整備を行うことにより、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。

滞在快適性等向上区域での取組  
 舞鶴城公園南広場、オリオン通り(春日本通り線)において、甲府まちなか未来ビジョンに描いた空間整備が関連事業で実現できるよう、「居場所化」を目的とした社会実験を実施する。  
 中央公園においても同様に「目的地化」を目的とした社会実験を実施する。  
 滞在快適性等向上区域内を起点とした回遊性の向上を図るためのパーソナルモビリティについて、導入可能性を検証するための社会実験を実施する。

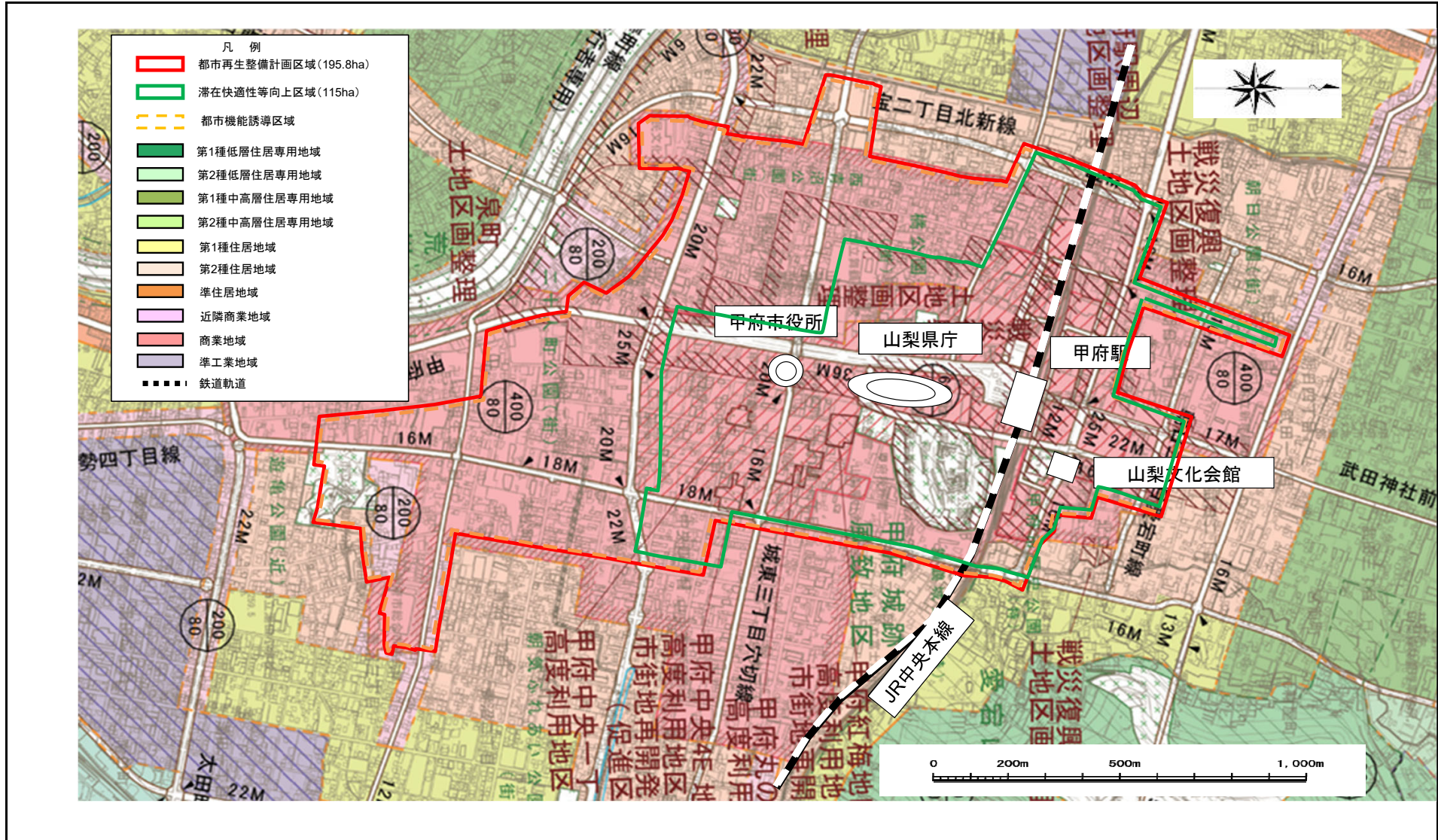
**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
まちなかの歩行量	人	毎年同時期に3日間の定点観測(21箇所)を行っている歩行者通行量の合計	新たな賑わい拠点の形成と回遊性の向上により、人が行き交うまちなかの賑わいを維持する。	120,699	R6年度	150,800	R11年度
中心市街地の活性化実感度	%	甲府市市民実感度調査において、中心市街地の賑わいが創出されていると実感している人の割合	官民による魅力ある滞留空間の創出と回遊性の向上により賑わいを実感する人の数が増加する。	21%	R6年度	30.0%	R11年度
イベントの開催数	件	中央公園・丸の内公園で実施されているイベントの件数	人が集い、憩い、交流できる広場空間を構築し、イベント等で活用される件数が増える。	2件	R6年度	4件	R13年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【都市機能の集積と居住空間の創出による生活利便性の高い職住遊が近接したまちなかの魅力の再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賑わいの創出につながる魅力的な店舗の立地を促すとともに、子育て支援施設等の誘導・充実を図ることにより、居住者や来訪者にとって、生活利便性の高いまちなか環境を形成する。また、まちなかに居住空間を創出することで、周辺の都市機能にアクセスしやすい職住遊が近接したゆとりある暮らしを確保するとともに、多様な交流の創出及び地域を支えるコミュニティの維持・形成を目指す。</li> </ul>	<p>【関連事業】</p> <p>優良建築物等整備事業：丸の内一丁目地区【市】</p>
<p>【多様な来訪者の拠り所となる拠点整備によるまちなかの活力の再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の回遊性と滞留性を向上させるため、誰でも自由に通行し利用できる空地やイベントスペース、屋上広場等を確保するとともに、快適な時間の消費を促す空間づくりなど、来訪者の拠り所となる拠点整備を行うことにより、魅力があふれ活力のあるまちなかを目指す。</li> <li>・甲府城周辺の交流施設・交流広場を始めとした拠点同士を結ぶ、快適で高質な道路空間を整備することにより、区域内全体の賑わいの連続性ととも、賑わいの面的な広がりを創出する。</li> <li>・ぐるりと回遊して歩きたくなるまちなかを目指し、まちなかにおける公共空間の居場所化、目的化を図るため、また、ビジョンに掲げたプロジェクトの事業性の検証等を行うための社会実験の実施及び検証を行う。</li> <li>・まちなかへのアクセスのしやすさを向上させるため、社会実験を実施することによりパーソナルモビリティの導入可能性を検証する。</li> </ul>	<p>【基幹事業】</p> <p>公園：中央公園【県】、丸の内公園【県】</p> <p>【まちなかウォーカブル推進事業関連事業】</p> <p>滞在環境整備事業：社会実験・データ活用【民間】</p> <p>【関連事業】</p> <p>優良建築物等整備事業：丸の内一丁目地区【市】</p> <p>高質空間形成施設：春日本通り線、舞鶴公園南線【市】</p>
<p>【子育て支援及び環境教育の場のリニューアルによるふれあいと賑わいの再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかにおける賑わいの創出を図る有効な施設として、次の5つの基本方針に基づいて整備を行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公園と動物園の融合を図る</li> <li>2 人と動物にやさしい環境をつくる</li> <li>3 「レクリエーション」と「学習の場」を提供する</li> <li>4 市民や外部団体との協働を図る場を提供する</li> <li>5 安定した運営に向けた施設整備を行う</li> </ol> </li> <li>・親子連れが多く利用することから、子どもの成長段階に合わせた遊具の設置や子育て世代のコミュニティづくりのための場を提供する。</li> <li>・環境教育の場として、動物や自然環境について関心を持つきっかけを提供する整備を行うため、動物の生態などの特性に応じた展示を行うとともに、環境学習の拠点として、公園と動物園のどちらからでも利用できるビジターセンターを設置する。</li> </ul>	<p>【基幹事業】</p> <p>公園：中央公園【県】、丸の内公園【県】</p> <p>【関連事業】</p> <p>誘導施設：遊亀公園附属動物園【市】</p> <p>公園：遊亀公園【市】</p>
<p>その他</p>	
<p>【官民連携体制】</p> <p>計画区域を含む「まちなかエリア」において、行政と民間が連携して取り組むべき方向性を示した「甲府まちなか未来ビジョン2025」を甲府市において策定(令和7年2月)</p>	



甲府駅周辺地区(山梨県甲府市)	面積 115 ha	区域 甲府市北口1~3丁目、朝日1~5丁目、丸の内1~3丁目、中央1~4丁目、相生1~3丁目、愛宕町、武田1、2丁目、若松町の各一部
-----------------	-----------	--



### 甲府駅周辺地区(山梨県甲府市) 整備方針概要図

目標	大目標:地域資源の魅力向上と回遊性の向上により、人々が集い、賑わいがあふれ、歩きたくなるまちなかへ再生する。 目標1:都市機能の集積と居住空間の創出による生活利便性の高いまちなかの魅力の再生 目標2:多様な来訪者の拠り所となる拠点整備によるまちなかの活力の再生 目標3:子育て支援及び環境教育の場のリニューアルによるふれあいと賑わいの再生	代表的な指標	まちなかの歩行量	人	120,699	(R6年度)	→	150,800	(R11年度)
			中心市街地の活性化実感度	%	21.0%	(R6年度)	→	30.0%	(R11年度)
			イベントの開催数	件	2件	(R6年度)	→	4件	(R13年度)

